

豊岡市：コウノトリ羽ばたくサステナブルな脱炭素観光地域づくり

～脱炭素による地域産業の再生・創出と地域の自然・文化の再生・創出～

脱炭素先行地域の対象：日高神鍋エリア
 主なエネルギー需要家：戸建住宅(956戸)、宿泊施設(84施設)、事業所(44施設)、公共施設(29施設)
 共同提案者：(一社)日高神鍋観光協会、(一社)Climate Integrate、(株)カネカ、ハチドリソーラー(株)、(株)ポーダレス・ジャパン、(株)但馬銀行、但馬信用金庫、たじま農業協同組合、(株)JTB

取組の全体像

コウノトリの野生復帰で形成した「ひょうご豊岡モデル」を脱炭素の取組に応用し、地域の持続的な発展を目指す。地域産業である観光業・農業・建設業を対象に、市のガバナンスコントロールの下、市民や研究機関等と連携の中で地域のニーズ(気づき)を把握し、将来像を策定・共有するとともに、地域内外の事業者の参画・連携を促す等の取組支援を行い、具体的な行動への移行、取組の連鎖を形成する。具体的には、域外事業者が地域内に支店を設置し地元建築事業者等に施工ノウハウ等を提供する取組や、地域が設置場所を提案する電源開発の推進によりエネルギーコスト面で観光業を支える他、大手旅行会社と連携しサステナブルツーリズムの展開、自然共生型の営農型太陽光の推進等のハード・ソフト両面の取組を推進し、地域産業の再生・創出に向けた仕組みを構築する。

1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- ① 全国展開する域外事業者が地域内に支社を設け、地元事業者へ施工技術等を伝えながら、住宅・事業所への太陽光発電(約1,500kW)及び蓄電池(198件、約1,800kWh)を導入
- ② 自治会等が提案する遊休地などへ域外民間事業者がオフサイト型の太陽光発電設備(約1,500kW)を導入
- ③ 道の駅及び周辺の宿泊施設を対象とした太陽光発電設備(約1,500kW)及び蓄電池(3件、約6,500kWh)を導入するとともに自営線マイクログリッド(MG)を構築。併せて、需給調整市場も活用し事業性を追求
- ④ 大学等と連携しコウノトリの生態に配慮した自然共生型の営農型太陽光発電(約150kW)を導入



自営線MGを構築する道の駅神鍋高原



自然共生型の営農型太陽光発電設備

2. 民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

- ① 電力使用量や旅行代金等の1%を地域共同基金「1% for Local」に積み立て、地域や観光業の活性化等に活用
- ② 気候変動による降雪の減少に悩む地域で観光業を転換するため、国内外で観光プログラムの企画・開発に実績を有する域外観光業者と観光協会との連携による高付加価値化したサステナブルツーリズム(脱炭素・ネイチャーポジティブな観光体験)の展開
- ③ 道の駅の脱炭素を契機としたセントラルキッチン化と各宿泊施設を結ぶEVバスを導入し、移動の脱炭素化を推進
- ④ 「脱炭素アカデミー」や「脱炭素ワークショップ」を実施し、市民・事業者の機運醸成と事業者育成を図る

3. 取組により期待される主な効果

- ① 市がこれまで培ってきたガバナンスコントロールの手法を脱炭素の取組に応用するとともに体系化し、市内外に展開
- ② 地元建築事業者の育成等を通じた事業拡大や雇用創出促進により地域経済の活性化に寄与
- ③ 自治会等の提案型オフサイト太陽光や自然共生型太陽光の取組の推進により、地域共生型再エネを推進するモデルを構築し市内外に展開
- ④ サステナブルツーリズムの展開とセントラルキッチン化する道の駅を中心にした自営線MGの構築及び自治会等の提案型オフサイト太陽光等による安価な再エネメニューの提供等により観光業の持続可能性を支援

4. 主な取組のスケジュール

